

暮らしに役立つ **税** の話

薬の購入が節税に？セルフメディケーション税制を上手に活用

皆さんは「セルフメディケーション税制」をご存じですか。この制度は、対象医薬品の購入額が年間1万2000円を超えた場合、その超過部分の金額について所得控除を受けることができる制度のことで、控除額には上限があり、最高で8万8000円です。医療費控除との併用はできませんが、年間1万2000円超と医療費控除に比べ基準額が低く、世帯購入額を合算できるため利用しやすい制度です。

所得額400万円の人が対象医薬品を5万円購入した場合
 5万円 - 1万2000円 = 3万8000円 (控除額)
 所得税: 3万8000円 × 20% (所得税率) = 7600円
 住民税: 3万8000円 × 10% (住民税率) = 3800円
 合わせて、1万1400円の減税となります。

対象の薬は？

対象となるのは、もともと医療用として医師の処

課税課 (内線117)

方と薬剤師の調剤を必要としていた医薬品が、市販薬としてドラッグストアなどでも購入できるようになったもので、「スイッチOTC医薬品」といいます。パッケージに「セルフメディケーション 税 控除 対象」のマークが表示されているものもあります。



利用するには健康診断などの健康管理が必要

制度を利用するためには、単に対象医薬品を購入するだけでは適用することはできません。人間ドックを始めとする各種健診 (検診) や予防接種などの健康管理 (※) に取り組む必要があります。

※なお、新型コロナワクチン接種は、健康管理の取り組みに該当します。

レシートは必ず確認し、保管を

申告の際は、レシートに記載された対象医薬品の金額を集計した明細書を提出する必要がありますので購入後のレシートは保管しておきましょう。また、健康管理の取り組みを証明する結果通知表や領収書も忘れずに保管しておきましょう。

大人の **租 税 教 室**

いきいき **介護予防**

自粛生活中でも社会とつながりましょう

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、不要不急の外出を控える生活が続いています。

高齢者や基礎疾患がある人は、新型コロナウイルスに感染すると重症化しやすいため、感染予防が大切です。しかし、家に閉じこもり人との交流を避けていると、「動かないこと、人と接しないこと」による健康被害を起しかねません。

◆自粛生活の影響

家に閉じこもり、人と接しない生活をしていると、筋力が低下するだけでなく心や脳の機能も低下しやすくなります。例えば、「外出頻度が1日1回未満」といった閉じこもり傾向がある高齢者の場合、そうでない高齢者と比べて生活能力の低下や認知症が発生しやすくなる傾向があります。また、孤独を感じている高齢者では、うつや循環器の病気にもなりやすくなります。

◆手軽な解消方法

感染予防を心掛けながら社会とつ

ながり、孤独や不安を軽減することは、介護予防や自分の命を守るために大切です。しかし、人と接することに不安を感じる人は少なくありません。今回は、手軽にできる方法をいくつか紹介します。

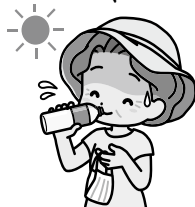
①電話、メールで交流しましょう。

安心できる人と話したり笑ったりすることで、気持ちが楽になります。直接会って話すことが難しい状況でも、電話やオンライン通話、メールなどを使って他の人と気持ちを共有することで、不安や孤独感が軽減されるといわれています。

②外出の機会を確保しましょう。

外出することは、日々の健康を維持するために重要です。一人や少数での散歩は、感染リスクの低い行動だといわれています。

散歩の際は熱中症にも注意しましょう。涼しい時間帯を選ぶこと、水分補給をすること、屋外で人と2メートル以上離れている時はマスクを適宜外すことがコツです。直接会って話をする際には、身体的距離 (フィジカル・ディスタンス) といわれる2メートル程度の距離を保つようにしましょう。



連載サロン

みんなで乗って守り育てよう



地域公共交通

公共交通の現状と課題について

日本人の平均寿命は、男性は81.41歳、女性は87.45歳で、男性、女性ともに過去最高値を更新しました。また最近、高齢者の免許返納の動きも顕著であり、長生きする高齢者にとって、公共交通の重要性はますます高まると推測されます。しかし、本市における公共交通の利用率は減少傾向にあり、このまま推移していくと、将来的には公共交通の減便や撤退の可能性があります。皆さんの大切な足を守るためにも、公共交通の利用が重要となってきます。

新型コロナワクチン接種に係る無料送迎バスなどの運行について

現在、新型コロナワクチン接種の実施に伴い、ワクチン接種会場までのアクセスとして、無料送迎バスを運行しています。送迎バスの運行は、ワクチン接種者

の会場までの移動を円滑に進めるため、近鉄バスおよび南海バスの各事業者のご協力のもと実施しています。

併せて、接種券の提示による路線バスの運賃無料や在宅の身体障がい者、要介護認定者などを対象にタクシーの基本料金の割引も実施しています。

「富田林市らくらくバスマップ」を配布しています

ワクチン接種の会場へ行くときに、路線バスを乗り継いでいくのが複雑で、分かりにくいといったご意見もあります。一方で、ワクチン接種を機会に路線バスに乗り、今後も路線バスで移動したいといったご意見もありました。

本市では、そのような利用者の皆さんにより使いやすい地域公共交通をめざすため、市内を運行するバス情報をまとめた「富田林市らくらくバスマップ」を配布しています。乗り換えに関しても、皆さんに分かりやすく案内しています。バスマップは、市ウェブサイト（道路交通課のページ）に掲載しているとともに、公共施設などでも配布していますので、ぜひ手に取って、今後も市内の路線バスなどの地域公共交通を活用してみてください。

道路交通課（内線416）

心と心をつなぐ

一日にたくさんの人が利用する駅。車いすの人が電車に乗る際、駅員さんが電車とホームの間に「わたり板」を用意する場面を皆さんも見掛けられたことがあると思います。最近では、電車とホームとの隙間や段差が改善され、「わたり板」を使わなくてもスムーズに電車の乗り降りができる駅が増えているそうです。全ての人が自由に移動できる設備がこれまで以上に整いつつあると感じます。

さて、今年6月、国土交通大臣より、「真の共生社会実現に向けた新たなバリアフリーの取組」を進めるよう、国土交通省内各局に指示がありました。その新たな取組の考え方には、「…障がいの有無や特性にかかわらず、全ての人が同じように便利で安心な公共交通機関を利用することができることをめざし…」と記されており、その具体的な内容として「障がい者用ICカードの導入」、「特急車両における車椅子用フリースペースの導入」などが挙げられていました。

近年、公共の場所では、科学技術の進歩によって

全ての人が利用しやすい設備やシステムが整ってきています。しかし、それだけでバリアフリーが進んだと言えるのでしょうか。大切なことは、相手の立場に立つこと、他者を思いやること、すなわち心のバリアフリーなのではないでしょうか。

本市の学校園では、さまざまな教材を通して他者理解が進むよう教育活動を実施しています。手話の体験学習をした学校では、今まで聴覚に障がいのある人と気持ちを伝え合うことは難しいと感じていた子どもたちが、手話を理解することで意思疎通ができる実感し、その後聴覚に障がいのある人とも一緒に楽しめる手話歌を自分たちで練習するようになったそうです。

子どもたちが、学校の仲間や地域の人たちなど身近な人のことを知り、理解が深まることで「真の共生社会の実現」に繋がると信じています。自分の心と他者の心に「わたり板」を渡さなくても、互いの気持ちが分かり合える未来をめざしたいものです。

教育指導室（内線364）